



No.74 2020.9.2

明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

“Meet de 対話「コロナ禍を経験して考えたこと 想ったこと」”を終えて

8月4・18・25日の3回、お盆をはさんでの火曜日ごとに“Meet de 対話「コロナ禍を経験して考えたこと 想ったこと」”をテーマに市内の先生方と対話の場を持たせていただきました。オンラインでの対話を実施するからわかるトラブルも経験することもでき、対話だけでなく、オンラインの会議等を運営する上で貴重な経験ができました。また、コロナ禍の中で学校間の情報交流も少ない中での学校間の情報交流ができたのではと思います。

対話の中で、休校期間中に感じた不安、学校再開後のいろいろな制約がある中での学級づくりの苦労や授業の悩み、当たり前であったことが当たり前ではなくなった戸惑い、また今までできなかったことができるのではという期待感等、参加者のそれぞれが感じられたことが交流されたのではと思います。その中でももちろん結論などはでませんでした。 “元にはもどらない、もどれない”といった感覚は共有されたのではと思います。参加された方からは “元にはもどらない、もどれない” だからといったポスト・コロナの学びを考えるきっかけになったのではと思います。



情報交換の中で、校内で自主的にオンラインの研修を実施した話を聞き、“この指とまれ”方式の研修の価値を改めて感じました。この“Meet de 対話”もこの指とまれ方式ですが、これから教師に求められる資質・能力を身につける機会はこの指とまれ方式的に、自分から求めないと見つからないのかなと思ったりします。変化させられるのではなく、自分で変えていこうという当事者的な姿勢が求められているんだろうなと思います。

対話の中で休校期間中の東京の麹町中の事例が話題になりました。「休校中でも普段通り学びをすすめることができた」といった生徒の話で、教師の視点から言うと「授業がすすめられた」となるところが、主体的な学びが身に付いた子どもの視点から見ると「学びがすすめられた」になるんだなと感じました。「授業がすすめられた」と「学びがすすめられた」では大きな違いがあり、授業そのもののスタイルを変えていかないと「学びがすすめられた」と子どもたちが考えるようにはならないんだろうなと考えます。また、児童の何気ない「今日は塾やけどオンラインやから、ぎりぎりまで遊べる」といった会話も紹介されたりする中で、子どもたちが学校外での経験のひろがりを改めて感じさせられました。

この対話には教育長も参加していただき、気軽に教育長と対話できたのもオンラインの持つ可能性なのかなと感じました。参加者の中からはこの特徴を使い、学級懇談会でも使えるのではというアイデアもでてきました。清重教育長からもこうした対話を引き続き行っていけたらというお話もいただきました。

是非学校でもポスト・コロナ社会での学校の姿などを対話する機会を持っていただけたらと思います。そうした対話が校内だけでなく、保護者や地域の方ともできる仕組みができていったらいいなと思っています。



8月28日に朝霧小CSで“Zoom体験会”が開催されました。

最初の予定では第1部は地域や保護者の皆さん向けのインストールからZoomの使い方を中心に、第2部はZoomを使つての会議体験を中心にとりものでした。第1回が終わってから第2部ではオンライン授業にチャレンジしてみたいという声があり、急遽第2部でオンライン授業にチャレンジすることになりました。

第1部では新たに参加された方もおられたので、インストールの復習から扱い方の復習を兼ねて行いました。そこで参加者のお手軽スマホに出会い、始めてみる画面に戸惑い、文字入力に戸惑ってしまい参加者の皆さんにご迷惑をおかけしてしまいました。でもお手軽スマホでもZoomにつながるということがわかり、一歩前進です。しかし、短時間に何回か会議室への入室を繰り返すと先ほどまで入室できていたのに、新しく設定した会議室に入室できない人が出てきました。これはセキュリティの設定によるものなのか、また宿題です。でも、会話がダイレクトに聞こえる中で、画面を通してのやりとりといった感じで和やかな雰囲気の中ですすめることができました。次回は最初のサインアップするところから始め、参加者の方に会議を主催してもらうところまでいきたいと思います。参加者の方と一緒に目標を設定しました。参加者のみなさん、ありがとうございました。



チャレンジする西田先生

第2部では朝霧小の西田先生が新聞の切り抜きを使つてのオンライン授業にチャレンジされました。10分程度の時間でしたがZoomで共有画面を使つたり、双方向でのやりとりをおこなってみたりと短時間の準備でしたが工夫された授業が提案されました。朝霧小の教職員だけでなく、第1部の会場に残っていた地域の方や、家庭から参加された保護者の方や地域の方も意見・感想の交

流に加わっていただくことができたのが、これからの学びを考える上で、教師の視点でつくっていた授業から社会の視点でつくる授業を考える大きな一歩になったのではと思っています。今まで言葉だけが飛び交っていた「社会に開かれた教育課程」の具体的な姿を始めて見たといった感じです。そして次回の第2部では小西先生、山本先生が“では次は自分が”とオンライン



図書室からオンラインに参加

授業にチャレンジされることになりました。次回、第2部に参加される保護者の方や地域の方が増えたらいいなと願っています。保護者や地域の方だけでなく、ちょっと覗いてみたいなという他校の先生もでてきたら面白いなと思っています。朝霧小CSでは、地域の方や保護者の方と一緒に、これから20年、30年と子どもたちの学びと育ちに関わっていく若い先生方のチャレンジが始まりました。「オンラインを使つたら朝中校区で授業の交流ができるな」と若い先生からのつばやきが頼もしかったです。ポスト・コロナ時代の朝霧小コミュニティ・スクールづくりが始まっています。

(文責：北本)